

日医FAX ニュース



日医FAXニュース
編集・発行：日本医師会(03-3946-2121)

■ 8月実施「予定通り」26年度以降再検討

— 高額療養費引き上げで首相 —

石破茂首相は2月28日、高額療養費の自己負担上限額引き上げを巡り、今年8月の定率引き上げを予定通り実施する方針を示した。高齢者の外来特例の見直しも予定通り26年度に実施する。ただ、新たな「多数回該当」の判定基準を設ける考えを示し、26年度以降の所得区分の細分化と合わせて、今秋までに改めて検討するとした。衆院予算委員会で立憲民主党の野田佳彦代表に答えた。

石破首相は「セーフティーネットを次の世代にも持続可能なものにするため、見直し自体は実施させていただきたい」と述べた。今年8月の定率引き上げは経済物価動向を踏まえて実施するとした。定率引き上げに当たっては、多数回該当の自己負担上限額は据え置く。社会保障費の圧縮効果は当初、200億円程度を見込んでいたが、100億円程度に縮小する。

● 「多数回該当」で新たな判定基準

新たな判定基準については「今後、新たに病気になる人についても、26年度以降の所得区分の細分化に伴う上限額の引き上げに伴い、

多数回該当から外れることがないように新たに判定基準を設けることにしたい」と説明した。

新たな判定基準と所得区分の細分化については、「今年秋までに政府として、患者団体を含めた関係者の意見を十分に承った上で、『増大する高額療養費を能力に応じてどのように分かち合うか』という観点から改めて方針を検討し、決定したい」と述べた。【メディファクス】

■ 福岡厚労相「修正案の説明尽くす」

— 高額療養費の負担増で —

福岡資麿厚生労働相は2月28日の閣議後会見で、高額療養費制度の負担上限額引き上げの凍結について問われ、現在の修正案で進める考えを示した。

保険料負担に対する不安の声も切実であるとして、修正案の趣旨・内容や制度見直しの必要性について「説明を尽くす」と述べた。

【メディファクス】

■ 美容医療から保険診療へ移行

— 厚労省が医師の実態調査 —

厚生労働省は、美容医療から保険診療へ移った医師の実態を把握するアンケート調査を実施している。関連学会を通じて所属する医師に調査への協力を呼びかけている。回答期限は3月14日まで。

対象は標榜科にかかわらず、美容を目的とした処置や処方自由診療で行った経験のある医師。キャリアや美容医療に従事・離脱した理由などを尋ねる。

厚労省は昨年、「美容医療の適切な実施に

関する検討会」を開催。同検討会の報告書では、医師の偏在是正の観点から、若手医師が美容医療に流れる問題については「議論の対象ではない」としつつ、引き続き厚労省で「別途必要な検討をしていく必要がある」と記載していた。

【メディファクス】

■ 日医と日歯が一般向け合同シンポ

— 4月、口腔の健康テーマに —
日医と日本歯科医師会は、一般向け合同シンポジウム「健康長寿に必要なこと一知って欲しい！お口の重要性—」を4月に開催する。日医の黒瀬巖常任理事が「お口の健康を維持するための禁煙のすすめ」をテーマに講演するほか、日歯の伊藤明彦常務理事が「やってみよう！口腔体操」を紹介する。

日歯が2月27日に開催した定例会見で、伊藤氏は「日医と日歯は、これまで懇談会などを開きながら連携する関係を築いてきた」と説明。昨年10月に、日歯から合同で広報事業に取り組むことを持ちかけ、合同シンポの開催に至ったとした。

合同シンポは4月6日午後1時～3時35分。会場は日医会館大講堂。事前申し込み制で、約450人を無料招待する。

27日の日歯会見ではこのほか、JDAT（日本災害歯科支援チーム）の商標登録を行ったことなどを発表した。

【メディファクス】

■ 脳卒中の普及啓発・予算拡充を

— 超党派議連でヒアリング —
超党派の「脳卒中・循環器病対策フォロー

アップ議員連盟」（会長＝自民・田村憲久衆院議員）は2月27日、関係団体からヒアリングした。脳卒中に関する正しい知識の普及啓発や、研究費への支援を含めた予算の拡充などを求める声が上がった。

日本脳卒中協会は、脳卒中の経験の「語り部」を育てる「脳卒中スピーカーズバンク」を2024年に開始した。自身も経験者として講演活動を続けている川勝弘之副理事長は「脳卒中にならない人、脳卒中で困らない人を増やすことが大事だ」とし、学校や職場で学ぶ機会をつくる必要があると主張した。

出席議員からも「働いている人にどう普及啓発していくかが大事だ」「がんと同様に学習指導要領に入れてはどうか」などの意見が出た。

日本循環器協会の小室一成代表理事は、国際的な医学雑誌への論文掲載数が減少していると指摘。研究が危機にあると訴えた。がんは研究が進んだことで予後が改善したと説明し、循環器病研究への支援を求めた。

日本脳卒中学会の藤本茂理事は、患者支援の核となる「脳卒中・心臓病等総合支援センター」の事業費が都道府県ごとにばらつきがあるとし、適切な予算を確保していくことが必要だとした。

議連の自見英子事務局長は「がんと比べて予算が少ないという現状をどう打破していくのか」が議連の意義だとし、今夏の「骨太の方針」に向けて検討していくことも考えたいとした。

【メディファクス】

■ インフル定点、2.21に減少

— 2月17～23日 —
厚生労働省は2月28日、2025年第8週（2

月17～23日)のインフルエンザの発生状況を公表した。全国の定点当たり報告数は2.21で、前週の2.63から減少した。総報告数は1万866人で、前週から約2100人減少した。

都道府県別の定点当たり報告数は、沖縄が8.66で最多。次いで新潟(6.07)、山形(4.59)となった。【メディファクス】

■ 「罹患後症状のマネジメント」を改訂

— 新型コロナウイルス —

厚生労働省はこのほど、新型コロナウイルス感染症の「罹患後症状のマネジメント」を第3.1版に改訂した。

改訂は2023年10月以来となる。最新の科学的知見を反映したほか、各章の冒頭にポイントを設け利便性を高めた。末尾には患者向けの説明資料や支援制度に関する情報を追加するなど、関連情報を集約した。

冊子は厚労省のホームページから閲覧できる。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00402.html

【メディファクス】

■ コロナ定点、4.95に減少

— 2月17～23日 —

厚生労働省は2月28日、2025年第8週(2月17～23日)の新型コロナウイルス感染症の発生状況を公表した。全国の定点当たり報告数は4.95で、前週の5.15から減少した。総報告数は2万4343人で、前週から約1100人減少した。

都道府県別の定点当たり報告数は、佐賀が8.13で最多。次いで茨城(7.29)、愛知(6.92)となった。

基幹定点医療機関(全国約500カ所)の届け出に基づく期間中の入院患者は1953人で、前週から約120人減少した。【メディファクス】

【お知らせ】

「すすめよう禁煙！川柳コンテスト」作品募集中！！

日本医師会では5月31日の世界禁煙デーに行うイベントの一環として、「禁煙」をテーマとした川柳を募集しています。ぜひ、ご応募願います。

◆主催：日本医師会、東京都医師会

◆運営協力：朝日新聞社メディア事業本部

◆募集締切：2025年4月13日(日)午後11時59分まで

◆賞：一般の部(高校生以上)計4点選出

ジュニアの部(中学生以下)計4点選出

◆募集内容：禁煙の重要性やたばこの害などをテーマとした川柳

◆応募方法：朝日新聞社ホームページ内に設けた応募フォーム(下記)より投稿[※一人1回5作品まで(複数投稿可)]

◆応募フォーム(専用サイト)

URL：<https://www.asahi.com/ads/2025nihon-ishikaisenryu/>

◆結果発表：世界禁煙デー(5月31日)に東京タワーで行うイベントにて公表

問い合わせ先：「すすめよう禁煙！川柳コンテスト」運営事務局

(E-M：jma-senryu2025@asahiculture.com)

日本医師会広報課